第１学年○組　道徳科学習指導案

指導者　○　○　○　○

１　主題名　　やさしい気持ちで（B　親切，思いやり）

２　教　材　　「くりのみ」　出典「きみがいちばんひかるとき」　光村図書

３　主題設定の理由

（１）子供の実態について

　本学級の子供たちは、明るく元気で、活発に学校生活を送っている。お手伝いを依頼すると、率先して行ったり、授業中には、理解に時間がかかる友達に優しく教えたりしている子が多くいる。その一方で、「ぼくが先だった」と並び順でもめたり、図工の材料の取り合いになったり、自己中心的な行動がみられることもしばしばある。低学年の子供たちは、他者との関わりにおいて、発達段階からも自分中心の考えをすることが多い。

相手の考えや気持ちに気付き、人に優しく接するよさを実感することが望ましい人間関係の構築のために必要である。１年生にとって、自分を犠牲にしてまでも親切な行為をすることは容易ではないが、そのような親切があるということに子供自らが気付き、やってみたいという気持ちを高めていきたい。そして、喜んでくれた相手の様子を自分の喜びとして受け入れられるようにしていきたい。

（２）道徳的価値について

自分のことばかりを考えたり、自分の思いだけを主張したりしていては、よい人間関係を築くことができない。お互いに相手に対しての思いやりの心をもって接することが必要である。思いやりとは、相手の立場や気持ちを自分のことに置き換えて推し量り、励ましたり、援助をしたりすることである。相手を思いやった行動をとることで、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、相手に思いやりをもった行動をとったり、親切にしたりできるようにしたい。

（３）豊かな心を育むための手だて

授業前半では、親切に対する子供たちの考えを明らかにするために、「困っている人に何もしてあげられなかったことはありますか」という事前アンケートの結果を提示する。

教材範読ののち、「心に残ったところはどこですか」と問う。食べ物を必要とする状況は同じにも関わらず、うさぎは２つしかないくりの実の１つを与える行為から、「困っている人をみつけたときに大切なこと」を考えていく。その際、すぐにはあげられず迷っていたうさぎの心情に共感することで、自分中心に考えてしまう心の弱さが誰にでもあることを理解させたい。そして、それでも分けてあげようと思ったうさぎの優しさへと考えを深めていく。

涙を流したきつねの様子は、子供たちの心に響く場面である。そのきつねの心情により深く寄り添うために、役割演技を行う。「ありがとう」などの感謝の言葉が予想されるが、理由を問うことで、うさぎの深い優しさに気付かせたい。相手の気持ちや状況を深く考えたうさぎの行動に、きつねの心が動かされていることに気付いた発言を引き出したい。

授業後半では、教材を通して気付いたことや大切にしたいことを問う。自分自身のことを振り返ることで、うさぎのように相手のことを考えた親切な行動をしてみたいという気持ちを高めていきたい。そして、相手の喜びが自分の喜びにつながることを実感させていきたい。

４　本時の目標

1. 登場人物たちの状況や気持ちを考える活動を通して、親切に接するよさに気付かせる。
2. 身近な人に優しく親切にしようという心情を育てる。

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | 児童の活動 | 教師の活動 |
| きづく(3)つかむ(7)ねる(20)ふかめる(7)みつめる(8) | １　困っている人に何もしてあげられなかったことはありますか。どのようなときですか。・弟の片付けを手伝わなかった。・友達の落とし物を一緒に探さなかった。少しもやもやした気持ちになった。２　話の中で、心に残った場面はどこですか。・うさぎが、きつねにくりの実をあげたところ。・きつねが、涙を流したところ。うさぎときつねは、どのような気持ちだったのでしょうか。。３　うさぎは、何をしばらく考えたのでしょうか。・ぼくもお腹が空いたから、あげたくないな。・お腹は空いているけど、きつねが困っているから、どうしよう。・２個しかくりの実はないから、迷ってしまうな。・きつねは、お腹を空かせているからあげよう。４　ぽたり、ぽたりと涙が落ちたきつねは、どんなことを考えていたのでしょうか。・くりの実がもらえてうれしいな。ありがとう。・ぼくは、独り占めしたくて、うそをついちゃったんだ。ごめんね。・うさぎは、すごく優しいな。・ぼくのどんぐりを分けてあげたいな。５　これからのきつねは、どんなことを大切にしていくと思いますか。・うそをつかない。・優しくなる。・困っている人を助けて、うれしい気持ちになる。６　今日の授業で新しく気が付いたこと、大切だなと思ったことは、どんなことですか。・困っている人の気持ちを考える。・友達に優しくしていみたいな。・人を助けて喜んでくれたら、自分もうれしい。・困っている子がいたら、助けてみたいな。 | ・親切に対する児童の考えを明らかにするために、事前アンケートの結果を提示する。・学習テーマを知らせる。・教材の内容を理解しやすくするために、ペープサートを使い教材を範読する。・うさぎもきつねも冬で食べ物がなく空腹を味わっているという状況を確認する。・きつねの心の弱さに共感できるようにするために、どんぐりを隠したきつねの気持ちを押さえる。・葛藤に気付けるように、あげたい気持ちと迷う気持ちに分けて、板書する。・うさぎの優しさに心打たれたきつねの心情に寄り添えるようにするために、うさぎ役を教師が行い、役割演技を行う。・相手のことを考えた優しさがきつねの心を動かしたことに気付かせるために、「お腹いっぱいなのに、涙が出るほどうれしいのはなぜなのか」と問い返す。・親切にするよさに気付かせるために、優しい行動をとったときに、どのような心情になるかを問う。・自己の変容や深まりが実感できるように、授業前の考えと今の考えを比較するよう問いかける。・相手のことを考えて、身近な人に親切にすることの大切さに気付いた児童を意図的に指名する。 |

５　評　価

1. きつねとうさぎの気持ちに寄り添い、両者の心情について話し合うことを通して、人に優しく接すると、相手の喜びが自分の喜びにつながると気付くことができたか。

（活動３、４、５の発言、ワークシートの記述から）

1. 親切に行動することのよさを考えたり、自分の考えや生活を振り返ったりすることを通して、身近な人に親切にしてみたいという気持ちを高めることができたか。

（活動６の発言、ワークシートの記述、その後の行動から）